

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		①指標「歩行者・自転車通行量」 目標値 37,000人／日(R4) ②指標「公共施設の利用者数」 目標値 534,455人／年(R4)	①指標「歩行者・自転車通行量」 目標値 37,500人／日(R6) ②指標「公共施設の利用者数」 目標値 584,455人／年(R6)	①新たな民間ビルの建替えに併せて追加する多様な事業、取組により、回遊性の向上が図られ、歩行者自転車通行量が増加するため。 ②図書館の事業規模が拡大することにより、利用者数の増加を見込み目標値を変更する。
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道中央1-373号線	-	-	65	電柱類の地中化 L=70m	景観形成のため電柱類の地中化を行うため追加	指標「歩行者・自転車通行量」への影響あり。	●	
道路	3・5・68東口南線	-	-	13	一方通行化 L=130m	駐車場を確保し、一方通行化を図ることで道路環境を向上させるために追加	本事業は福井駅東口拡張施設の整備と併せて効果を発揮するものであるため、指標への影響はない。	●	
公園	中央公園	-	-	90	園路、遊具等 22,636㎡	他事業で行う屋根付き広場の整備を補完する公園事業として追加	他事業で行う屋根付き広場の整備を補完するものであるため、指標への影響はない。		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	広場(北陸新幹線福井駅東口拡張施設)	-	-	394	観光交流センター 572㎡	高次都市施設:観光交流センターの事業の一部を移行	高次都市施設:観光交流センターの一部を移行したものであるため、指標への影響はない。	●	
地域生活基盤施設	広場(えちぜん鉄道高架下)	-	-	20	舗装等 845㎡	整備後の高架下を都市イベントなどの多様な活動に利用し、市民や来街者のにぎわいを創出するために追加	舗装のみの整備であり、効果は軽微であるため、指標への影響はない。		●
地域生活基盤施設	自転車駐車場	17	駐輪場の整備 370台	13	駐輪場の整備 448台	駐車台数を増加	軽微な変更であるため、指標への影響はない。	●	
地域生活基盤施設	公共サイン	12	公共サインの設置 4基	6	公共サインの設置 一式	北陸新幹線福井開業等に伴い公共サインの正確な情報整備が必要があるため事業内容を変更	軽微な変更であるため、指標への影響はない。	●	
高質空間形成施設	福井城址周辺整備	193	遊歩道の整備 L=450m	224	遊歩道の整備 L=450m	事業費の変更	軽微な変更であるため、指標への影響はない。	●	
高質空間形成施設	市道中央1-625号線、外3路線	106	石畳、ブロック舗装 L=551m	59	石畳、ブロック舗装 L=291m	事業箇所の変更	軽微な変更であるため、指標への影響はない。		●
高質空間形成施設	東口駅前広場	-	-	70	融雪設備 70㎡	恐竜モニュメント周辺での賑わい創出の一端として融雪設備を設置しする	効果は軽微であるため、指標への影響はない。	●	
高次都市施設(観光交流センター)	北陸新幹線福井駅東口拡張施設	1,476	観光案内所、休憩室等 2,089㎡	927	観光案内所、休憩室等 1,126㎡	事業量・事業費の変更	事業の一部を地域生活基盤施設に移行したものであるため、指標への影響はない。	●	
既存建造物活用事業(誘導施設)	教育文化施設(図書館)	1,196	図書館 2,622㎡	1,810	図書館 4,486㎡	事業量・事業費の変更	指標「公共施設の利用者数」への影響あり。	●	
既存建造物活用事業(高次都市施設)	地域交流センター	579	地域交流センター 1,278㎡	437	地域交流センター 1,084㎡	事業量・事業費の変更	指標「公共施設の利用者数」への影響あり。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	賑わい拠点化・魅力向上事業	2.5	業務委託	2.5	業務委託	—	—	●	
	回遊性向上事業	20	業務委託	20	業務委託	—	—	●	
	まちなか観光周遊事業	5	業務委託	—	—	公共交通の利用や誘導施設と連携した取組等を別事業により実施することになったため、事業を削除	地域創造支援事業の別事業に移行するため、指標への影響はない。		
	賑わい創出事業	96	業務委託	110	業務委託	事業費の変更	軽微な変更であるため、指標への影響はない。	●	
	まちなか滞在推進事業	26	業務委託	—	—	公共交通の利用や誘導施設と連携した取組等を別事業により実施することになったため、事業を削除	地域創造支援事業の別事業に移行するため、指標への影響はない。		
	福井市版スマートシティ推進事業	50	業務委託	25	業務委託	事業箇所、事業費の変更	軽微な変更であるため、指標への影響はない。	●	
	まちなかテラス連携事業	—	—	60	業務委託	新型コロナの影響で来街者が減少する中、北陸新幹線開業を契機と捉え、再度賑わいを創出するために追加	地域創造支援事業の別事業に移行したものであるため、指標への影響はない。	●	
	まちなかレンタサイクル事業	25	業務委託	29	業務委託	事業費の変更	軽微な変更であるため、指標への影響はない。	●	
事業活用調査	事業活用調査	8	業務委託	10	業務委託	事業費の変更	軽微な変更であるため、指標への影響はない。	●	
まちづくり 活動推進事業	民間まちづくり活動支援事業	1.5	補助金	1	補助金	事業費の変更	軽微な変更であるため、指標への影響はない。	●	
	県都の顔づくり推進事業	24	補助金	12	補助金	事業費の変更	軽微な変更であるため、指標への影響はない。	●	
	まちなか空間活用事業	8	補助金	1	補助金	事業費の変更	軽微な変更であるため、指標への影響はない。	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
福井駅付近連続立体交差事業		JR北陸本線、えちぜん鉄道他	63,000	63,000	平成3年度 ~ 平成30年度	平成3年度 ~ 平成30年度	完了		
福井駅周辺土地区画整理事業		福井駅周辺地区	45,612	45,612	平成3年度 ~ 平成30年度	平成3年度 ~ 平成30年度	完了		
優良建築物等整備事業		中央1丁目10番地区	4,943	4,943	平成28年度 ~ 令和2年度	平成28年度 ~ 令和2年度	完了		
市街地再開発事業		駅前電車通り北地区	40,700	40,700	平成31年度 ~ 令和4年度	平成31年度 ~ 令和6年度	完了予定		
市街地再開発事業		福井駅南通り地区	14,200	14,200	平成31年度 ~ 令和4年度	平成31年度 ~ 令和6年度	完了予定		
道路事業		都市計画道路環状西線	850	850	平成31年度 ~ 令和6年度	平成31年度 ~ 令和6年度	完了予定		
道路事業		都市計画道路桜橋線	80	80	平成31年度 ~ 令和3年度	平成31年度 ~ 令和3年度	完了		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	モニタリング	事後評価	見込み	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	歩行者・自転車通行量	人/日	-	-	32,334	H29	37,500	R6	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定	●	39,298	事後評価	○		
指標2	公共施設の利用者数	人/年	-	-	491,150	H28	584,455	R6	モニタリング			モニタリング			●	
									事後評価	確定	●	571,818	事後評価	△		
指標3	観光施設利用者数	万人/年	-	-	157	H28	159	R6	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定	●	203	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	歩行者・自転車通行量を推計した結果、評価値は39,298人/日となり、目標値37,500万人/年を上回ったため、目標達成度は「○」とする。	ハピリン開業以降、H29年度に通行量は一旦落ち込んだが、賑わい創出に向けて様々なイベント等を実施したことにより通行量は増加に転じた。しかし、R2年度以降は、コロナの影響により減少に転じ、R3年度以降では駅前電車通り北地区A街区解体工事の影響も重なり著しく通行量が減少したが、コロナによる行動自粛期間を除きイベント等を継続的に実施してきたため、これらの影響がなければ増加傾向が継続していたと推測する。 調査地点毎の傾向を見ると、ハピリンから駅前電車通りと、その他の地点では通行量に大きな差があるため、いかに歩行者を回遊させるかが今後も課題である。
指標2	公共施設の利用者数を推計した結果、評価値は571,818人となり目標値を達成できなかった。一方で、従前値は上回っていることから改善が見られると判断し、目標達成度は「△」とする。ただし、今回の評価は、市立図書館が閉館している期間に行ったものであり、事業効果を適切に推測することが難しかったため、リニューアルオープン後に実施するフォローアップで改めて事業効果を検証する必要がある。 なお、リニューアルオープンの周知や図書館で開催するイベントの充実により、市立図書館の入館者数が市の想定する見込値 262,000人に達すると仮定した場合、評価値は646,480人と目標値を超えるため、1年以内の達成見込みは「有」とする。	-
指標3	観光施設利用者数を推計した結果、評価値は203万人/年となり、目標値159万人/年を上回ったため、目標達成度は「○」とする。	-

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度				
その他の数値指標1	-						モニタリング		
							事後評価		
その他の数値指標2	-						モニタリング		
							事後評価		
その他の数値指標3	-						モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

駅周辺で実施されてきた各種事業の進展や北陸新幹線金沢・敦賀開業への期待感の高まりなどを背景に、以下のような新たな動きが生まれている。

- 地価の上昇
  - ・駅周辺部の地価は、平成27年以降に上昇傾向に転じ、その傾向が維持されている。
- 市街地再開発事業の進展
  - ・福井駅前電車通り北地区A街区第一種市街地再開発事業
  - ・福井駅前電車通り北地区B街区第一種市街地再開発事業
  - ・福井駅前南通り地区第一種市街地再開発事業
  - ・中央1丁目10番地区(優良建築物等整備事業:完成)
  - ・中央1丁目18番地区(優良建築物等整備事業:完成)
- 福井版ほこみち制度「ふくみち」の実施
  - ・福井市では、訪れる人や通勤・通学者にとって、より快適な歩行者空間を創出するため、歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)制度の導入に向けて令和3年度より社会実験を進めている。
  - ・社会実験では、中央大通りや県庁線の一部の区間を使って、キッチンカーやカフェなど、市民の憩いやにぎわいを創出する空間を期間限定で設置し、来訪者や出店者のニーズの把握、民間活力の導入可能性の検証などに取り組んでいる。
  - ・令和3年10月の社会実験には1万人を超える来場者が訪れ、中心市街地に賑わいをもたらしている。
  - ・令和6年2月にほこみち制度の特例区域が指定され、3月にまちづくり福井が占有者になり、日常的な道路空間の活用がはじまった。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
-	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

### 添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
福井市立図書館のリニューアルに向けたワークショップ	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】計2回 【実施時期】平成30年度 【実施結果】福井市立図書館のリニューアルに向けて、中高生、大学生、一般を対象としたワークショップを開催し、提案された意見や要望を施設計画に反映した。	今後も市民のまちづくり意識の啓発や各種事業に市民意向を反映するために、ワークショップ等の市民参加の機会を提供するほか、取り組みの結果をマスコミ等と連携して広く周知する。
民間企業と連携した賑わいづくり	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 民間企業が主体となり、提案事業を活用した多様なイベントが展開された。 ■福井放送(株):越前ふくいマルシェの企画運営など ■福井エフエム放送(株):まちなかdeランウォークの企画運営など ■(株)福井テレビ放送:セーレンプラネットで開催するイベント等の企画運営など ■(株)福井新聞:まちなか「アオハル」プロジェクトの広報など	

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
まちづくり福井株式会社	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 中央一丁目のエアーマネジメントを担う組織としての機能強化	まちづくり福井株式会社 (平成12年2月設立) ※平成25年4月から都市再生推進法人 ※平成30年4月に福井市と都市利便増進協定を締結 ※令和5年10月から福井市観光交流センターの指定管理者 ※今後はふくまちブロックの一部を、まちづくりの担い手育成・交流の拠点として活用予定	今後も市民や民間の取り組みに対して支援を行うとともに、官民が連携して中心市街地の活性化に向けた取り組みを進める。
一般社団法人 EKIMAE MALL	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● (株)福井新聞社との協働による学生によるまちづくりの支援	一般社団法人 EKIMAE MALL (平成28年9月設立) ※令和元年以降、学生のまちづくり活動を積極的に支援	

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係各課への意見照会	新幹線整備課、地域交通課、自転車利用推進課、新幹線プロモーション課、商工振興課、文化振興課、農政企画課、監理課、公園課、図書館	令和6年1月	都市整備課 (都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3		—	
指標名		歩行者・自転車通行量		観光施設利用者数		—	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路:市道中央1-373号線	○	歩行者ネットワークや駐輪場の整備によるアクセス性の向上、まちなかで開催された各種イベントの集客効果が主な要因となって目標を達成した。 一方で、市街地再開発事業の工事着工、新型コロナウイルス感染症、対象事業の完成が計画期間の後半に集中したことの影響で、期待していた事業効果を十分に発揮できていない面があるため、今後は更なる事業効果の発現が期待される。	○	まちなかで開催された各種イベントの集客効果、歩行者ネットワークの整備などに伴うアクセス性の向上が主な要因となって目標を達成した。 一方で、事業完成が計画期間の後半となり、期待していた事業効果を十分に発揮できていない面があるため、今後は更なる事業効果の発現が期待される。		—
	道路:3・5・68東口南線	○		○			
	公園:中央公園	△		△			
	地域生活基盤施設:広場(北陸新幹線福井駅東口拡張施設)	○		○			
	地域生活基盤施設:広場(えちぜん鉄道高架下)	△		△			
	地域生活基盤施設:自転車駐輪場	○		○			
	地域生活基盤施設:公共サイン	○		○			
	高質空間形成施設:福井城址周辺整備	○		○			
	高質空間形成施設:市道中央1-625号線、1-330号線 外3路線	△		△			
	高質空間形成施設:東口駅前広場	○		○			
	高次都市施設:北陸新幹線福井駅東口拡張施設	○		○			
	既存建造物活用事業(誘導施設):教育文化施設(図書館)	—		—			
	既存建造物活用事業(高次都市施設):地域交流センター	—		—			
提案事業	地域創造支援事業:賑わい拠点化・魅力向上事業	○	◎				
	地域創造支援事業:回遊性向上事業	○	◎				
	地域創造支援事業:賑わい創出事業	○	◎				
	地域創造支援事業:福井市版スマートシティ推進事業	○	○				
	地域創造支援事業:まちなかテラス連携事業	○	◎				
	地域創造支援事業:まちなかレンタサイクル事業	○	○				
	事業活用調査:事業活用調査	—	—				
	まちづくり活動推進事業:民間まちづくり活動支援事業	○	◎				
	まちづくり活動推進事業:県都の顔づくり推進事業	△	△				
まちづくり活動推進事業:まちなか空間活用事業	○	◎					
関連事業	福井駅付近連続立体交差事業	○	○				
	福井駅周辺土地区画整理事業	○	○				
	優良建築物等整備事業	○	○				
	市街地再開発事業	△	△				
	道路事業	—	○				

※指標改善への貢献度  
 ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。  
 ○:事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。  
 △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。  
 —:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	令和6年3月に開業する北陸新幹線の利用者をまちなかの回遊に誘うため、現在進行中の各種プロジェクトの早期完成を目指すとともに、歩行者ネットワークの充実、イベントなどによる賑わい創出に引き続き取り組む。 加えて、昨今のDXの動きを踏まえ、通行量の自動計測の導入について検討する。	令和6年3月に開業する北陸新幹線の利用者を観光施設に誘導するため、歩行者ネットワークなどの環境づくりや、イベントなどの仕掛けづくりに引き続き取り組む。	—
-------	--	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2					
指標名		公共施設の利用者数					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路:市道中央1-373号線	—	福井市立図書館のリニューアルオープンが計画期間の後半となり、期待していた事業効果を十分に発揮できなかったことが主な原因となって目標未達成となった。ただし、駅前に立地する桜木図書館は、各種イベントの効果によって回復傾向にある。また、今後、福井市立図書館のリニューアルの周知やイベントの充実、地域交流センターの活用が図られれば、目標の達成が期待される。	I			
	道路:3・5・68東口南線	—					
	公園:中央公園	—					
	地域生活基盤施設:広場(北陸新幹線福井駅東口拡張施設)	—					
	地域生活基盤施設:広場(えちぜん鉄道高架下)	—					
	地域生活基盤施設:自転車駐車場	—					
	地域生活基盤施設:公共サイン	—					
	高質空間形成施設:福井城址周辺整備	—					
	高質空間形成施設:市道中央1-625号線、1-330号線 外3路線	—					
	高質空間形成施設:東口駅前広場	—					
	高次都市施設:北陸新幹線福井駅東口拡張施設	—					
	既存建造物活用事業(誘導施設):教育文化施設(図書館)	△					
	既存建造物活用事業(高次都市施設):地域交流センター	△					
提案事業	地域創造支援事業:賑わい拠点化・魅力向上事業	△					
	地域創造支援事業:回遊性向上事業	△					
	地域創造支援事業:賑わい創出事業	△					
	地域創造支援事業:福井市版スマートシティ推進事業	—					
	地域創造支援事業:まちなかテラス連携事業	△					
	地域創造支援事業:まちなかレンタサイクル事業	—					
	事業活用調査:事業活用調査	—					
	まちづくり活動推進事業:民間まちづくり活動支援事業	△					
	まちづくり活動推進事業:県都の顔づくり推進事業	—					
まちづくり活動推進事業:まちなか空間活用事業	△						
関連事業	福井駅付近連続立体交差事業	—					
	福井駅周辺土地区画整理事業	—					
	優良建築物等整備事業	—					
	市街地再開発事業	—					
	道路事業	×					

※目標未達成への影響度  
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
 △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。  
 —:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類  
 分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。  
 分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	リニューアルした福井市立図書館に新しく地域交流センターが併設された利点を広報し、利用促進を図るとともに、まちなかで生活・交流するために必要な機能の充実に引き続き取り組む。		
------------------	---	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係各課への意見照会	新幹線整備課、地域交通課、自転車利用推進課、新幹線プロモーション課、商工振興課、文化振興課、農政企画課、監理課、公園課、図書館	令和6年1月	都市整備課 (都市再生整備計画担当課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
公共交通の利用と連携したまちなか地区の賑わいの再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年10月に福井駅東口の新幹線駅舎に併設して福井市観光交流センターがオープンし、情報発信や交流の拠点が形成された(観光案内所は新幹線開業に合わせてオープン予定)。</li> <li>・まちなかの歩行者ネットワークや駐輪場の一部、公共サイン、レンタサイクルスペースが完成し、徒歩や自転車による快適な移動環境が整った。</li> <li>・コロナ禍以降に、民間の団体や企業による多様なイベントが開催され、様々な年代の参加者が中心市街地に集った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業の遅れに伴い、当初の予定通りに実施できなかった事業を含め、歩行者ネットワークの更なる充実に向けて、引き続き整備を進める必要がある。</li> <li>・まちなかの新たな交流拠点として期待される中央公園やえちぜん鉄道高架下の広場は、予定されている令和6年度の完成に向けて、引き続き整備を進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年3月に開業する北陸新幹線で福井駅に訪れる来訪者を、如何にまちなかの観光や回遊に誘導するかが課題である。</li> </ul>
歴史資源を活かしたまちなか地区の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井駅から福井城址を介して養浩館に続く歩行者動線の高質化が一部完成した。</li> <li>・養浩館のライトアップやグリフィス記念館での催しなど歴史資源を活かした取り組みが行われ、歴史資源の周知や賑わいの創出につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかの歴史資源を結ぶ歩行者動線の高質化が一部未完成であるため、引き続き整備を進める必要がある。</li> </ul>	—
まちなか地区における生活機能の確保	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年春にオープンする福井市立図書館、地域交流センターについて、豊かな暮らしや文化、地域社会の発展へ持続的に寄与するよう、利用の促進や運営における市民参画などに取り組む必要がある。</li> </ul>	—

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	公共交通の利用と連携したまちなか地区の賑わい再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した施設など自ら情報発信するとともに、利用者、来街者目線で不足している事項を補完していく。</li> <li>・官民が連携し、完成した施設の利用を通じて来街者へのおもてなしに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レンタサイクル利用促進事業やまちなか誘客促進事業等ソフト面での取り組み。</li> </ul>
	歴史資源を活かしたまちなか地区の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史資源を結ぶ回遊散策を楽しんでいただけるよう自ら情報発信するとともに、官民連携してイベントを企画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レンタサイクル利用促進事業やまちなか誘客促進事業等、回遊を促すようなソフト面での取り組み</li> </ul>

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	公共交通の利用と連携したまちなか地区の賑わい再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未完成事業について早急に完成させ、供用を開始させる。</li> <li>・北陸新幹線福井開業を迎え、来街者がリポートして福井に来ていただけるよう、まちなかの魅力向上に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市道中央1-330号線整備事業、市道中央1-373号線整備事業</li> <li>・自転車駐車場整備事業</li> <li>・県都まちなか再生事業や魅力あるまちなか創出事業等、民間の建物改築等の設備投資を促すための支援実施</li> </ul>
	歴史資源を活かしたまちなか地区の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークの完成に向けた取り組みを継続する。</li> <li>・地域住民の主体的な活動を促しながら、歴史を感じる空間を整備し、歴史資源を活かした回遊性の向上に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井城址周辺整備事業</li> <li>・三秀公園整備事業</li> <li>・寿公園整備事業</li> <li>・グリフィス記念館外構整備事業</li> <li>・福井城坤櫓等復元整備事業(県が実施)</li> <li>・北の庄城址や柴田公園の利用促進に向けた取り組み(資料館の充実など)</li> </ul>
	まちなか地区における生活機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前料亭街だった浜町エリアの再生、ブランドの復活に向け官民が連携して取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・灯のまちづくり事業</li> <li>・「和モダン」のまちなみ形成に寄与する民間の建物改築や新規建築に対する支援</li> </ul>

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・特になし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度				予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標1	歩行者・自転車通行量	人/日	32,334	H29	37,500	R6	確定	39,298	○	あり		→	R6年10月	令和6年度の中心市街地内の10地点における歩行者・自転車通行量(7月と10月の平日及び休日の平均)を確定値とする。	-
							見込み ●			なし					
指標2	公共施設の利用者数	人/年	491,150	H28	584,455	R6	確定	571,818	△	あり ●		→	R7年4月	令和6年度の「桜木図書館」「市立移動図書館」「市立図書館」それぞれの利用者数を合計した値を確定値とする。	-
							見込み ●			なし					
指標3	観光施設利用者数	万人/年	157	H28	159	R6	確定	203	○	あり		→	R7年4月	令和6年度のまちなか地区における主要観光施設利用者数を確定値とする。	-
							見込み ●			なし					
その他の数値指標1	-			H			確定					→			
その他の数値指標2	-			H			確定					→			
その他の数値指標3	-			H			確定					→			

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	・残事業を計画的に実施しながら、事業の効果を継続的に観測することが望まれる。
	うまくいかなかった点	・コロナ期間において、各指標の実績値が著しく減少する等、評価値を適切に推計することが困難であった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・住民参加プロセスとして、「市立図書館のリニューアルに向けたワークショップ」やマスコミが主体となった多種多様なイベントが開催され、各種イベントの周知が充実したことで市民のまちづくりに対する関心や意識の高まりなどにつながった。	・市民がまちづくりに関わることができる機会をできるだけ提供し、市民が主体となったまちづくり活動や官民連携の取組みにつなげることが望まれる。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	事前周知の充実・徹底、既存まちづくり団体へのヒアリングなどの対応が望まれる。
	うまくいかなかった点	・原案公表の意見数が0件であった。	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

## 添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の交付金の活用予定

『福井まちなか地区(第2期)都市再生整備計画』を令和6年度から令和10年度にかけて実施する。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	福井市ホームページに掲載	令和6年2月1日 ～令和6年2月15日	令和6年2月1日 ～令和6年2月15日	郵便 FAX 電子メール	都市整備課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	福井市都市整備課窓口	令和6年2月1日 ～令和6年2月15日	令和6年2月1日 ～令和6年2月15日		

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	三寺潤(福井工業大学 教授)	令和6年3月28日	都市整備課	福井まちなか地区 都市再生整備計画事業 事後評価委員会 設置要綱	福井まちなか地区 都市再生整備計画事業 事後評価委員会 設置要綱
その他の委員	岩崎正夫(まちづくり福井株式会社 会長) 山口淳治(株式会社福井銀行 地域創生チームリーダー)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標1「歩行者・自転車通行量」は、目標を達成した整理で良い。ただし、地点毎に見ると多くの地点が増加傾向に転じているものの、依然として通行量の差が激しいため、歩行者を如何に回遊させるかが課題である。</li> <li>・通行量調査は人手で実施していると思うが、天候やイベントに合わせて機動的に調査日程を変更することが難しいため、AIカメラなどを活用して自動計測できると良い。また、滞在時間なども計測できると、施策に反映しやすいと思う。</li> <li>・全ての指標は、新幹線開業効果で今年度は間違いなく大きく上昇し、その後は大きな伸びの反動が一時的に生じると思われる。各施策の評価は、新幹線開業効果と切り離して分析することも重要である。</li> <li>・生活機能の確保という目標に対する指標は、定義の仕方が難しいと思うが、引き続き検討して欲しい。</li> </ul>
	実施過程の評価	・まちづくり福井(株)の取り組みとして、新たに開業するふくまちブロックにおける同社保有床の一部を、ふくまち大学を運営する組織へ貸し出し、まちづくりの担い手育成・交流の拠点として活用する取り組みも、実施過程の評価に加えて欲しい。
	効果発現要因の整理	・特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見数が0件だったのは残念である。市民の関心が薄いのではないかと国が疑問を持たないかが気になる。</li> <li>・市民に関心を持ってもらえるように、公表の方法を見直すなどの工夫を引き続き検討する必要がある。</li> </ul>
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、マンションの建設、入居が増えることを考えると、食品スーパーなどの日常生活を支えるサービス施設をどう誘致するかが課題である。</li> <li>・来街者を回遊させるきっかけとして、県都まちなか再生ファンドの活用が有効である。</li> <li>・田原町ミュージアムについては、もっとPRして積極的な利用促進を図るべきである。</li> <li>・県が検討を進める福井城坤櫓等復元整備も今後想定される事業に盛り込んでどうか。</li> <li>・北の庄城址資料館の充実など、北の庄城址・柴田公園の利用を促すための取り組みも必要である。</li> <li>・グリフィス記念館のPRや、人がゆっくりできる空間の整備など、来街者目線でしっかりデザインしたハード整備が必要である。</li> <li>・公共交通と連携したにぎわい再生においては、駐輪場の整備だけでなく、自転車専用道路、通行帯の整備も必要である。</li> </ul>
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・委員からの意見を踏まえて加筆修正することを前提に、今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。